

企画展「わたしの見た戦争―戦時下の子どもたち―」観覧

市民憲章唱和

1 あいさつ

I 平成27年度開催事業について

【事務局説明】

(委員)

3ページと4ページで講演会の聴講者の人数が違うようだが、なぜか。

(事務局)

申し訳ない。3ページのものは特別展の担当が把握した人数、5ページのものは受付が把握していたもので、違った理由は確認する。

(委員)

歴博講座は3回か。申込みは必要か。

(事務局)

5回の連続講座。事前の申込みが必要。当日に参加したいと言われる方もいたが、今回は5回すべてに参加できる方のみ、ということで申込みを受けているため、お断りした。

(委員)

なぜ申込制にしたのか。

(事務局)

今回初の試みで、連続で聞いて安城の歴史を知ってほしいという意図から申込制にした。飛び入り希望の方もいたが、その都度説明してお断りした。周知が不足していた部分もあったと思う。

(委員)

すべて聞かなくては安城の歴史が分からないというものでもないと思う。希望する回だけ聞けるようにしても良いのではないか。

(事務局)

通しで申込制は今回初めての試みなので、今回の効果を検証した上で検討したいと思う。

(委員)

音声ガイドはいくつあるのか。

(事務局)

20台。

(委員)

今後の展覧会はすべて音声ガイドを用意するのか。また、有料展でも無料で貸し出すのか。

(事務局)

いずれもその予定。貸出の時に名前と連絡先を書いてもらっているので、借りた人が持ち帰ってしまうということはないと思う。

(委員)

音声で聞くというのは良い手段。今後もし是非続けていってほしい。

(委員)

団体のお客さんに対する解説も並行してやっていくのか。

(事務局)

その予定。確かに個人のお客様で音声ガイドを聞いている人にとって、団体客への解説は邪魔になると思うが、今のところ、特にお叱りはない。

(委員)

今日も解説してもらったが、学芸員の生の解説というのは、とても良く分かる。音声ガイドと展示説明、是非両方続けてほしい。

## Ⅱ 平成27年度下半期開催予定事業について

### 【事務局説明】

(委員)

都築弥厚の展示について、弥厚は伊能忠敬に会って測量方法を学んでいると思うが、そのことをどのように紹介するのか。

(事務局)

確かに弥厚は伊能忠敬に会って測量時に案内をしており、また、次に伊能忠敬が岡崎か赤坂のほうに來た時に会いに行っているが、測量を学んだという資料は確認できない。そのあたりをどのように紹介していくかは、思案のしどころだと思う。

(委員)

「時代を彩った美女たち」は、展示資料を見たところ、美女でないものも含まれている。単に「女性たち」で良いのではないか。

(委員)

「美女」のほうが良いと思う。「美女」につられて、お客さんが来てくれる。

(委員)

錦絵は何点くらいあるのか。

(事務局)

20点くらいピックアップしている。展示スペースの関係でどのくらい展示できるかはまだ分からない。

(委員)

展示は時代順になるのか。また、ポスターに描かれたものなどを展示する予定はないのか。

(事務局)

まずは江戸時代から明治にかけての浮世絵と引き札、次に明治期から大正にかけてのポスターや絵葉書、次に大正から昭和にかけての雑誌、という展示を考えているので、概ね時代順になる予定。また、ポスターに描かれたものについても現在収蔵品で探している。

(委員)

この女性たちの絵を展示して、お客さんに何を見てもらうのか。

(事務局)

江戸時代の化粧方法は今とは随分違っている。また、着物や髪型の流行なども変わっているので、時代によるその変化を見てもらいたいと思っている。

(委員)

女性の絵といえば、やはり日本画に多いと思う。ギャラリーにはたくさんの女性を描いた作品があるので、そちらを展示してはどうか。

(事務局)

ギャラリーで収蔵している作品は、現代作家のもので、残念ながら、今回の企画展の時代設定からはずれていると思う。

### Ⅲ 平成28年度開催事業について

#### 【事務局説明】

(委員)

伊藤若冲というのは、どういう人なのか。

(事務局)

京都出身で、民間の絵師としては与謝蕪村と並ぶ評価を得ている。画風に幅があって、緻密な作品から文人画風のものまで、様々な作品が残されている。来年は生誕300周年のため、各地で展覧会が行われる。当館もそのブームにのってたくさんの方に来館してもらいたいと考えている。

(委員)

代表的な作品が来るのか。

(事務局)

現在のリストを見ると、どちらかというと文人画風のものが多く含まれている。しかし若冲の作品以外にも細見美術館が所有している洛中洛外図や月次絵、茶道具の名品など、見ごたえのあるものが展示される予定。展覧会のイメージとしては、細見美術館名品展の中に伊藤若冲のコーナーがあるというふうに考えていただきたい。

(委員)

なぜこの展覧会を安城で開催しようと考えたのか。

(事務局)

若冲は京都の画家なので安城と関係があるとは言えないが、まずは博物館に来る人の裾野を広げたいということを考えている。とにかく良いものを見る機会を作り、これまで博物館に来ないような人に、まず博物館に来てもらう。それから安城のものに興味を持ってもらう。そのための企画であると考えている。

そして、特別展に来てもらえば、特別展のチケットで常設展示室も見ることができる。そうして常設展示室を見ていただくことで、安城のことに興味を持っていただき、リピーターになってもらう、そんな狙いがある。

(委員)

裾野を広げたいというのは理解できる。どういった層をターゲットに考えているのか。

(事務局)

当館の来館者は、高い年齢の人が圧倒的に多いので、若い世代を狙うべきと考えている。そのためには展覧会の企画の幅を広げ、親子で来館してもらえそうな企画を今後考えていきたいと思っている。

(委員)

こちらの館には、「安城」と「歴史」、2つの縛りがある。この縛りのせいで、企画についても大変難

しい面があると思うが、それほど縛られる必要はないと思う。この博物館の愛好者を増やすためにも、新しい試みというのは良いと思う。

(委員)

こちらの博物館では、現在の展示を行いながらも次年度の企画をし、しかも色々なジャンルのものを一生懸命やっていて、感心している。とても精力的にやっていると思う。今後がんばってやってほしい。

### 3 その他

【事務局説明】

議事終了